

癌と骨病変 Part 2 . 症候

早朝カンファランス 仲田

肺癌の骨転移後の平均生命予後は3ヶ月程度だが乳癌や前立腺癌では2~3年である。
造骨性転移の方が病的骨折は少なく癌性疼痛も少なく、溶骨性転移より予後も良好である。
癌性骨疼痛は発痛サイトカイン(PG, bradykinin, substance P)によると思われ化学療法、放射線施行で治療翌日にも疼痛改善が認められる事実から説明される。また体動に伴う癌性疼痛にはモルヒネが無効なことが多く逆にNSAIDsが有効な事実とも合致する。

乳癌で骨転移すると予後は平均24ヶ月であるが長管骨に転移すると12ヶ月と不良である。
脊椎に転移する場合脊柱の尾部に下るにつれ転移頻度は高くなり椎体の骨髄量によるといわれる。
脊椎転移癌の検索は原発不明の場合、乳房、前立腺、肺、造血器に標的を絞ると効率的といわれ消化管の検索は不要なことが多い(消化癌転移では癌治療歴が多い)。

高カルシウム血症

高カルシウム血症は乳癌や胃癌などの腺癌よりも咽頭癌や食道癌などの扁平上皮癌の方が高カルシウム血症を起しやすい。高カルシウム血症は多発性骨髄腫、扁平上皮癌(咽頭、食道癌)、腎癌では約15%で、ATLでは70%に及ぶ。癌に伴う高Ca血症は癌からの体液性因子によるHHM(humoral hypercalcemia of malignancy)が80%、骨浸潤によるLOH(local osteolytic hypercalcemia)が20%である。HHMのほとんどすべてにPTHrPが関与しておりとりわけ扁平上皮癌とATLで多い。

Caが11mg/dLでは無症状のことが多く12mg/dLから易疲労感、食欲不振、13mg/dL以上では思考力、集中力低下、多尿、口渴、多飲(尿細管での濃縮力低下)、15mg/dL以上で意識混濁、昏睡となる。治療は生食による十分な補液(2~3L/日以上)とループ利尿薬による脱水の改善とNaの排泄と共役してCaの排泄を図る。またビスフォネートやエルシトニンで破骨細胞を抑制する。ビスフォネートでCaは2日後から低下し1週で最低となり2週持続する。

前立腺癌などの造骨性転移では大量のCaが骨に急速に取り込まれるhungry boneの為低Ca血症を起すことがある。